

名前：内藤敦之

最終学歴：一橋大学経済学研究科博士課程単位取得修了

職名：教授

学位：博士(経済学)、一橋大学経済学研究科

担当科目：マクロ経済学 A、B、経済データの読み方、基礎経済学、専門基礎演習、専門演習

所属学会：経済学史学会、進化経済学会、経済理論学会、社会思想史学会、ケインズ学会

専門分野：経済理論、経済思想史

■研究業績

【著書】(共著、編著、執筆分担を含む)

1. 『内生的貨幣供給理論の再構築——ポストケインズ派の貨幣・信用アプローチ』、日本経済評論社、2011年。
2. 「インフレーション目標政策の批判的検討」『金融と所得分配』、日本経済評論社、2011年。
3. 「金融主導型レジームの限界とグローバル・クライシス」『グローバル・クライシス』、青山社、2012年。
4. 「認知資本主義—マクロレジームとしての特徴と不安定性」『認知資本主義 21世紀のポリティカル・エコノミー』、ナカニシヤ出版、2016年。

【論文】

1. 「内生的貨幣供給と流動性選好：ポストケインジアンにおける論争」『一橋論叢』第122巻第6号、1999年。
2. 「ケインズの金融的動機—ポストケインジアンの解釈を巡って—」『経済学史学会年報』第38号、2000年。
3. 「内生的貨幣供給とファイナンス」『一橋論叢』第125巻第6号、2001年。
4. 「貨幣的循環理論と流動性選好」『季刊 経済理論』第41巻第3号、2004年。
5. 「ホートリーの信用貨幣論—貨幣的循環と銀行—」『経済学史学会年報』第46号、2004年。
6. 「貨幣・信用・国家—ポスト・ケインズ派の信用貨幣論と表券主義」『季刊 経済理論』第44巻第1号、2007年。
7. 「ケインズの貨幣観—内生的貨幣供給論と計算貨幣説」『大月短大論集』第39号、2008年。
8. 「ポストケインジアンの内生的貨幣供給論とケインズの貨幣的経済学」、博士学位論文、一橋大学、2009年。

9. 「最後の雇用者政策とベーシック・インカム – ポスト・ケインジアンと認知資本主義の比較」『大月短大論集』第40号、2009年。
10. 「金融政策論の批判的検討の試みーインフレーション目標政策論と政策ルール論」『大月短大論集』第41号、2010年。
11. 「インフレーション目標政策論と自然利子率論」『大月短大論集』第44号、2013年。
12. “Instability and unsustainability of cognitive capitalism: Reconsideration from a post-Keynesian perspective”, *Knowledge Cultures*, Vol. 1, No. 3, 2013.
13. “Controversies on Endogenous Money, Finance and the Multipliers: Classical Debate on Interest Rates in 1930s and Two Modern Controversies of 1980s and 1990s”, *Post Keynesian Review*, Vol. 3, No. 2, 2015.
14. 「「金利生活者の安楽死」論の現代的意義」『大月短大論集』第47号、2016年。
15. 「ミンスキーと流動性選好」『大月短大論集』第49号、2018年。
16. 「貨幣の名目性:表券主義の貨幣理論」『季刊 経済理論』第55巻第4号、2019年。
17. 「フーコーのネオ・リベラリズム分析」『大月短大論集』第51号、2020年。
18. “Nominality of Money: Theory of Credit Money and Chartalism”, *Review of Keynesian Studies*, Vol.2, 2020.
19. 「コロナ禍の日本経済ーポスト・ケインジアンの視点からのマクロ経済分析」『季刊 経済理論』第59巻第1号、2022年。
20. 「『生政治の誕生』におけるネオ・リベラリズムの起源」『大月短大論集』第54号、2023年。
21. 「『生政治の誕生』におけるネオ・リベラリズム分析:経済思想史的視点からの考察」『立教経済学研究会』第77巻第4号、2024年。

【その他】(報告書、書評、翻訳、エッセイなど)

1. 「Jan Toporowski: *Theories of Financial Disturbance: An Examination of Critical Theories of Finance from Adam Smith to the Present Day*, Edward Elgar, 2005」『経済学史研究』第48巻第2号、2006年。
2. ジル・ドスタレール著『ケインズの闘い 哲学・政治・経済学・芸術』藤原書店(翻訳)、2008年。
3. 「Bradley W. Bateman, Toshiaki Hirai, Maria Cristina Marcuzzo (eds.): *The Return to Keynes*, Harvard University Press, 2010」『ソフィア』、第59巻第2号、2011年。
4. 「古川 顕『R. G. ホートレーの経済学』ナカニシヤ出版、2012年」『経済学史研究』、第55巻第1号、2013年。
5. ブラッドリー・W・ベイトマン、平井俊顕、マリア・クリスティーナ・マルクッツォ編『リターン・トゥ・ケインズ』東京大学出版会(翻訳)、2014年。
6. マリア・クリスティーナ・マルクッツォ著『市場の失敗との闘いーケンブリッジの経済学

- の伝統に関する論文集』日本経済評論社(翻訳)、2015年。
7. L. L. パシネッティ著『ケインズとケンブリッジのケインジアン 未完の「経済学革命」』日本経済評論社(翻訳)、2017年。
 8. 「Fernando J. Cardim de Carvalho, *Liquidity Preference and Monetary Economics*, Routledge, 2015」『経済学史研究』第58巻第2号、2017年。
 9. 「『ポスト・ケインズ派経済学』鍋島直樹著、名古屋大学出版会、2017年」『図書新聞』第3312号、2017年。
 10. 「やさしい経済学 信用としての貨幣を考える①～⑥」『日本経済新聞』、2017年10月16, 17, 18, 19, 20, 24日。
 11. 「J. Halevi, G. C. Harcourt, P. Kriesler, and J. W. Nevile, *Post-Keynesian Essays from Down Under: Theory and Policy in an Historical Context* (4 vols., 2016) をめぐって」『経済学史研究』第60巻第1号、2018年。
 12. 「『金融不安定性のマクロ動学』大月書店、二宮健史郎著」『経済セミナー』2018年10・11月号、日本評論社、2018年。
 13. 「内生的貨幣供給論とは何か：現代の貨幣経済を読み解く」『クライテリオン』改題第8号(通巻86号)、2019年。
 14. G. A. エプシュタイン著『MMTは何が間違いなのか？ 進歩主義的なマクロ経済政策の可能性』東洋経済新報社(翻訳)、2020年。
 15. “Antonella Rancan, *Franco Modigliani and Keynesian Economics*, London and New York: Routledge, 2020, pp. 175”, *Review of Keynesian Studies*, Vol.3, 2021.
 16. 「木村雄一著『カルドア 技術革新と分配の経済学：一般均衡論から経験科学へ』」『季刊経済理論』第58巻第2号、2021年。
 17. 「追悼:渡會勝義先生(1945-2020)」『マルサス学会年報』第30号、2021年。
 18. 「現代貨幣理論の展開:内生的貨幣供給理論からの検討」、『信用理論研究』第40号、2023年。
 19. 「David Glasner, *Studies in the History of Monetary Theory: Controversies and Clarifications*, Palgrave Macmillan, 2021」『経済学史研究』第66巻第1号、2024年。

【学会報告・研究発表】

1. 「ケインズの金融的動機とポストケインジアン解釈」経済学史学会第64回全国大会、一橋大学、2000年。
2. 「ケインズにおける貨幣—計算貨幣と内生的貨幣供給」進化経済学会第6回大会、関西大学、2002年。
3. 「貨幣的循環理論と流動性選好」進化経済学会第7回大会、専修大学、2003年。
4. 「ホートリーの信用貨幣論」経済学史学会第68回大会、北星学園大学、2004年。
5. 「貨幣・信用・国家—信用貨幣と表券主義—」経済理論学会第53回大会、大東文化大学、

2005年。

6. 「ポストケインジアン」の「最後の雇用者(Employer of Last Resort)」政策」経済理論学会第54回大会、愛知大学、2006年。

7. "Money, Credit, and the State: Keynes, Hawtrey, and Chartalism", Japan Society of Economic Thought, Young Scholars' Seminar 2008, Hitotsubashi University, 2008.

8. "Money, credit and state: Post-Keynesian theory of credit money and chartalism", Association for Heterodox Economics, 10th Anniversary Conference, Anglia Ruskin University, 2008.

9. 「認知資本主義論：ポスト・フォーダイズムにおける新たな労働」進化経済学会第13回大会、岡山大学、2009年。

10. "Money, Credit and the State: Post Keynesian Theory of Credit Money and Chartalism", The Japanese Society for Post Keynesian Economics, The Ricardian-Post Keynesian Joint International Seminar, Nishogakusha University, 2009.

11. "Inflation targeting, income distribution, and financialization", The Japanese Society for Post Keynesian Economics, International Conference on Production and Distribution, Meiji University, 2010.

12. 「インフレーション目標政策論の批判的検討：金融化と所得分配」経済理論学会第58回大会、関西大学、2010年。

13. "Return of the rentier: Keynes' s theory of “the euthanasia of the rentier” revisited", The Ricardo Society, International Conference on Money, Finance and Ricardo, Meiji University, 2011.

14. 「ケインズの「金利生活者の安楽死」論再考」第1回ケインズ学会大会、上智大学、2011年。

15. 「貨幣的循環理論における金融不安定性」経済理論学会第60回大会、愛媛大学、2012年。

16. "Return of the rentier: Keynes' s view on “the euthanasia of the rentier” revisited", 9th International Keynes Conference, Hitotsubashi University, 2013.

17. 「認知資本主義：マクロレジームとしての特徴と不安定性」経済理論学会第62回大会、阪南大学、2014年。

18. 「「金利生活者の安楽死」論の現代的意義」第5回ケインズ学会、立正大学、2015年。

19. 「M.C.マルクツォ編『市場の失敗との闘い』からみえてくるケンブリッジ学派」経済学史学会関東部会、立教大学、2016年。

20. “Relevance of the Euthanasia of the Rentier Concept,” 12th International Keynes Conference, Hitotsubashi University, 2016.

21. 「ミンスキーと流動性選好」第6回ケインズ学会大会、国士舘大学、2016年。

22. 「ポスト・ケインジアンにおける計算貨幣説の展開」政治経済学ワークショップ、東京大学、2017年。

23. “Inflation targeting policy and the theory of natural interest rate” , International Workshop on Classical Economists and Classical Monetary Theory, Rikkyo University, 2017.
24. “Inflation Targeting Policy and the Theory of Natural Interest Rate”, 第 33 回制度的経済動学セミナー、京都大学、2018 年。
25. 『『ケインズとケンブリッジのケインジアン』(L. L. パシネッティ著)を読んで』ポスト・ケインズ派経済学研究会、早稲田大学、2018 年。
26. 「貨幣の名目性:表券主義の貨幣理論」第 8 回ケインズ学会大会、一橋大学、2018 年。
27. “Nominality of money: Theory of credit money and Chartalism”, International Workshop on Classical Monetary Theory 2019, Rikkyo University, 2019.
28. 「J. Halevi, G. C. Harcourt, P. Kriesler, and J. W. Neville, *Post-Keynesian Essays from Down Under: Theory and Policy in an Historical Context* (4 vols., 2016) をめぐって—ポスト・ケインジアンにおける達成: カレツキ、オーストラリア、理論と政策を軸として—」ポスト・ケインズ派経済学研究会、早稲田大学、2019 年。
29. 「表券主義の貨幣理論—マクロ経済システムと政策的論点—」第 9 回ケインズ学会大会、明治大学、2019 年。
30. 「コメント:企画セッションⅡ「現代的貨幣論の検討」」日本財政学会第 76 回全国大会、横浜国立大学、2019 年。
31. 「貨幣の名目性:表券主義の貨幣理論」第 24 回進化経済学会大会、オンライン開催、2020 年。
32. 「MMT の可能性について」東京経済大学創立 120 周年記念シンポジウム「現代貨幣理論とコロナ危機」、ハイブリッド開催、日経ホール、2021 年。
33. 「コロナ禍の日本経済—ポスト・ケインジアンの視点からのマクロ経済分析」、「共通論題:「コロナ禍と現代資本主義」」、経済理論学会第 69 回大会、オンライン開催、2021 年。
34. 「ポスト・ケインジアンの金融政策論—インフレーション目標政策から非伝統的金融政策までの評価」、第 27 回進化経済学会大会、立教大学、2023 年。
35. 「名目主義における貨幣の起源と本質:信用貨幣論、MMT、ケインズ」、ケインズ学会第 14 回大会、立教大学、2024 年。
36. “Keynes on Chartalism and Origin of Money”, International Workshop on Classical Political Economy 2025, Rikkyo University, 2025.

■社会活動

1. 「哲学するとは何か 第 3 回 経済政策の哲学—ネオリベラリズムのフーコーによる分析—」県民コミュニティーカレッジ、大月短期大学、2017 年。